【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】令和3年4月15日(2021.4.15)

【公開番号】特開2019-160946(P2019-160946A)
【公開日】令和1年9月19日(2019.9.19)
【年通号数】公開・登録公報2019-038
【出願番号】特願2018-43650(P2018-43650)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｆ　1/055　(2006.01)
Ｃ２２Ｃ　38/00　(2006.01)
Ｂ２２Ｆ　3/00　(2021.01)
Ｃ２２Ｃ　19/07　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｆ　1/055　１７０
Ｃ２２Ｃ　38/00　３０３Ｄ
Ｂ２２Ｆ　3/00　Ｆ
Ｃ２２Ｃ　19/07　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】令和3年2月25日(2021.2.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ＲおよびＴを含む希土類永久磁石であって、
ＲはＳｍを必須とし、ＰｒまたはＮｄを必須とする２種以上の希土類元素、ＴはＦｅ単独またはＦｅおよびＣｏであり、
前記希土類永久磁石全体に対するＲの含有割合が２０．３ａｔ％以上３７．０ａｔ％以下であり、Ｔの含有割合が４７．９ａｔ％以上８０．０ａｔ％以下であり、
Ｒ全体に対するＳｍの含有割合が５０ａｔ％以上９８ａｔ％以下であり、ＰｒおよびＮｄの合計含有割合が２ａｔ％以上４９ａｔ％以下であり、
前記希土類永久磁石は、Nd_5Fe_{17}型結晶構造を有する結晶粒子からなる主相を含み、
前記希土類磁石についてＣｕ管球を用いてＸＲＤ測定し、回折角度２θ（°）を横軸、検出強度を縦軸として作成したＸ線回折プロファイルにおいて、３４．３８°＜２θ（°）＜３４．６４°、３８．７０°＜２θ（°）＜４１．２０°および４１．６０°＜２θ（°）＜４２．８０°の範囲内にそれぞれ検出強度のピークが存在し、
４１．６０°＜２θ（°）＜４２．８０°の範囲内で最も検出強度が高いピークの検出強度をα、３４．３８°＜２θ（°）＜３４．６４°の範囲内で最も検出強度が高いピークの検出強度をβ、３８．７０°＜２θ（°）＜４１．２０°の範囲内で最も検出強度が高いピークの検出強度をγとして、０．３８＜α／β＜０．７０および０．４５＜γ／β＜０．７０であり、
３４．３８°＜２θ（°）＜３４．６４°の範囲内で最も検出強度が高いピークが前記Nd_5Fe_{17}型結晶構造に由来するピークであることを特徴とする希土類永久磁石。
【請求項２】
さらにＣを含有し、Ｃの含有割合が０ａｔ％超１５ａｔ％以下である請求項１に記

載の希土類永久磁石。
【請求項３】
希土類焼結磁石である請求項１または２に記載の希土類永久磁石。